

小樽市立病院における医療事故等の公表基準

1. 目的

小樽市立病院で発生した医療事故等の内容、原因、改善策等について、自らこれを公表し、医療の透明性を確保することにより、地域住民が安心して医療を受けられる環境づくりと、医療安全管理体制の向上を図るため、この基準を定めるものである。

2. 用語の定義

(用語の定義)

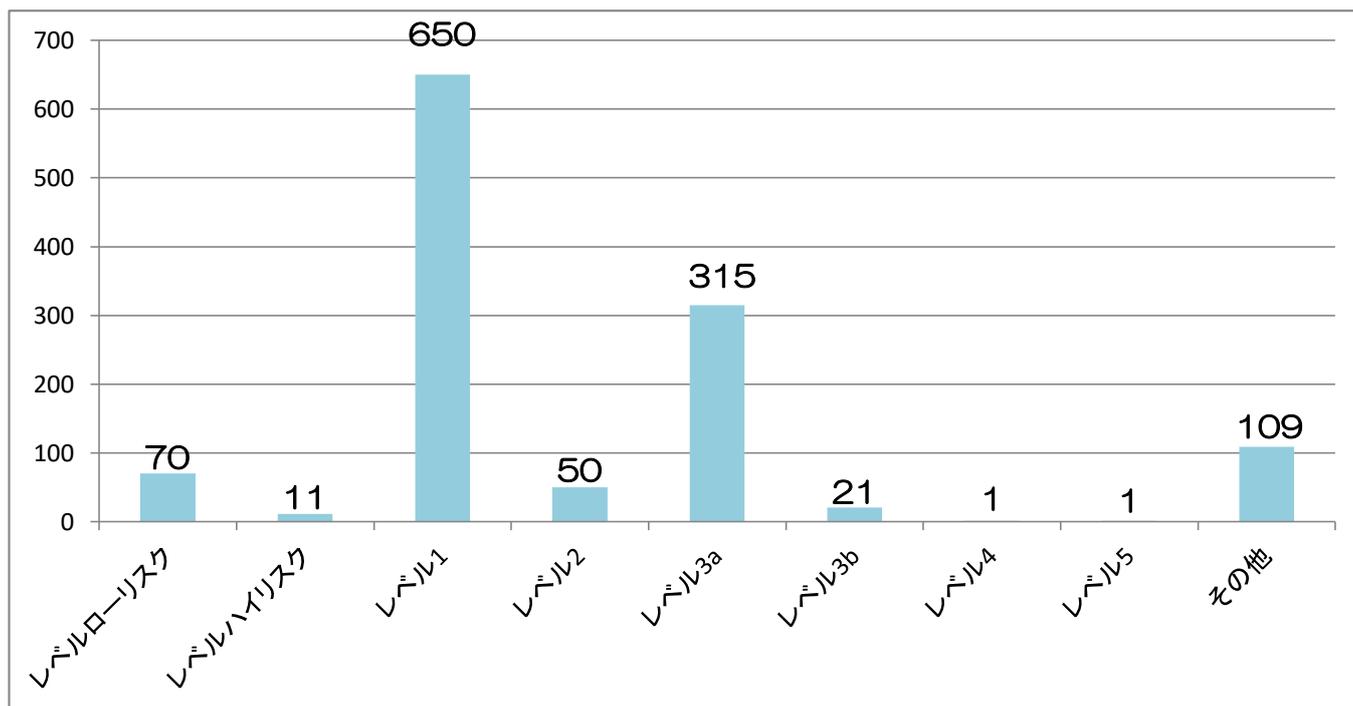
- (1) 医療事故 医療に係る場所で、医療の全過程において発生する人身事故一切を包含し、医療提供者の過失の有無を問わない。患者だけではなく、家族や医療従事者に被害が生じた場合も含み、転倒のように医療行為と直接関係しない場合も含む。また、身体的実害はないが、検査、観察を必要としたり、精神的被害を与えた場合も含む。
- (2) 医療過誤 医療事故の発生原因に、医療提供者の過失があるものをいう。
- (3) 医療（医事）紛争 医療に関して、医療提供側と患者側との間に生じた紛争をいう。
- (4) インシデント 日常診療の場で、誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは、誤った医療行為が実施されたが、結果として患者に実害を及ぼすに至らなかったものをいう。本規定では、「ヒヤリ・ハット」から経過観察が必要なものまでとする。医療事故レベルとして、0から2、その他に相当する。
- (5) アクシデント 本規定では、医療事故レベルとして、3a から5に相当する。

3. 医療事故等の区分

アクシデント（医療事故）・インシデント（ヒヤリ・ハット）は、下記の通り区分することとする。

	区分	内容
インシデント (ヒヤリ・ハット)	レベルローリスク	間違ったことが発生したが、患者には実施されなかった
	レベルハイリスク	レベルはローリスクではあるが、実施されればレベル4~5が予想される
	レベル1	患者に実害はなかったが、何らかの影響をあたえた可能性があるため、観察の強化や心身の配慮が必要になる場合
	レベル2	事故により患者にバイタルサイン等の変化が生じ、観察の強化及び検査の必要性が生じた場合
	その他	盗難、器具破損や書類の渡し間違いなど患者には影響がない場合
アクシデント (医療事故)	レベル3a	簡単な治療や処置を要した場合。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与等)
	レベル3b	新たな治療や処置を要した場合。(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折等)
	レベル4	事故による障害が長期にわたると推測される場合
	レベル5	事故が死因となる場合

4. 2021年4月1日～2022年3月31日 インシデント・アクシデント レベル別発生数



レベル4	<p>動脈硬化のある患者に内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した。術後に右視床出血を発症し、左上下肢不全麻痺となった。</p> <p>(主な再発防止策)</p> <p>術前カンファレンスでリスク評価し、検討する。タイムアウトでリスク情報を共有する。術前訪問を実施する。</p>
レベル5	<p>中心静脈カテーテル自己抜去後の空気塞栓により死亡した。</p> <p>(主な再発防止策)</p> <p>抑制基準に則り、安全が確保できない状態であれば抑制を検討する。中心静脈カテーテル自己抜去時の対応について全職員へ周知を行う。</p>

5. 2021年4月1日～2022年3月31日 インシデント・アクシデント 概要別発生数

